

「ツチグリの探究 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ツチグリは変わった生態のキノコだが、決して珍しいものではない。山溪のガイドブックには「山道を歩いていると、土が崩れたような場所でよく見かける」と書いてある。実際にその通りで、「普通の地面」というよりも、土が崩れた斜面のような場所を好む。人の目には保護色のように見え、探そうと思って探さないと見逃してしまうのだ。



雨の日や、雨の翌日には、このように外皮が開き、地面から少し浮いたような状態で見つかる。内皮も球状にふくらんで、虫がとまるとその衝撃で、内皮上部の孔から胞子を噴出する。



翌日に同じ場所を見に行ったら。この日はよく晴れていたから、外皮が収縮して完全に丸まっていた。この状態では見つけるのが難しいだろう。



私はツチグリの生態を、得意の「四コマ漫画」ならぬ「六コマ漫画」にしてみました。ヒントにしたのは、牧野の図鑑にあった説明分だ。重要なことは、ツチグリの菌質にある。一般的なキノコのように水分が多い肉質ではない。ツチグリは外皮は木の皮のように硬く、内皮も革質で強靱である。つまり、いつまでたっても腐らない。この漫画のような形の変化を、実に1年近く繰り返して、内皮の中にあつた胞子をすべて飛ばしたあとも、外皮は開閉を続けていることもある。このことは、ツチグリは数個入手すれば、何度でも実験に使えることを意味している。